

今回は、「Xバンドレーダ」の第3回目の紹介です。

また、愛知県河川課より「日光川玉野放水路の供用開始」の情報提供もありましたのでお知らせします。

◇ 7月5日(月)から
XバンドMPレーダの降雨観測情報 一般配信開始!



サービスの概要

中部地方整備局では10年前に起きた東海豪雨、一昨年岡崎市や大垣市に見られた局地的な大雨や集中豪雨による被害が頻発していることを受け、従来のCバンドレーダではとらえることのできなかった局地的な降雨についても、詳細かつリアルタイムでの観測がより可能な、XバンドMP(マルチパラメータ)レーダの整備を進めてきました。

この度、中部管内の愛知県安城市・一宮市、三重県鈴鹿市の3箇所に設置したXバンドMPレーダが本年3月末に完成し、観測情報の一般配信に先立ち、4月から行ってきたレーダの検証作業が終わったことから7月5日(月)より試験運用を開始し、**観測情報をインターネットにて一般配信**していますのでお知らせ致します。

なお、閲覧URLは以下のとおりです

(閲覧URL) <http://www.river.go.jp/xbandradar/>

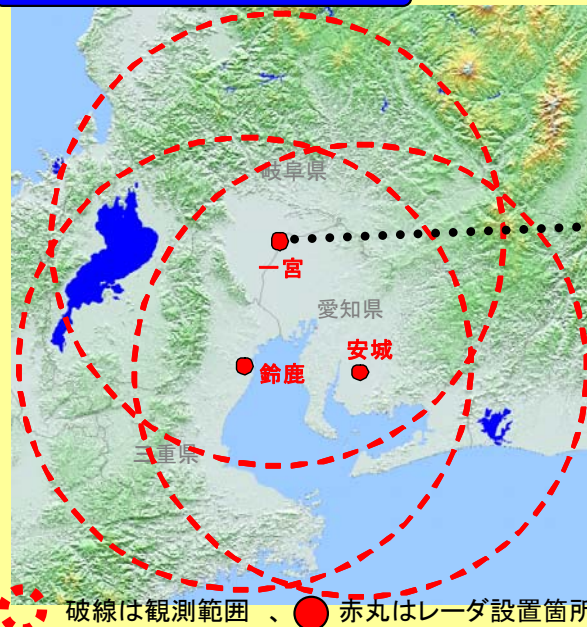


XバンドMPレーダは、国土交通省の従来型レーダと比べ、**高頻度更新(1分更新)**、**高分解能(250mメッシュ)**が特徴で、局地的な“ゲリラ豪雨”の発達や移動を監視できます。

観測範囲内では、局地的な大雨や集中豪雨の実況監視が強化されますので、水防活動などに積極的にご利用下さい。

なお、中部以外の都市圏(関東、近畿、北陸)でも同様のサービスを開始しました。

レーダ設置箇所と観測範囲



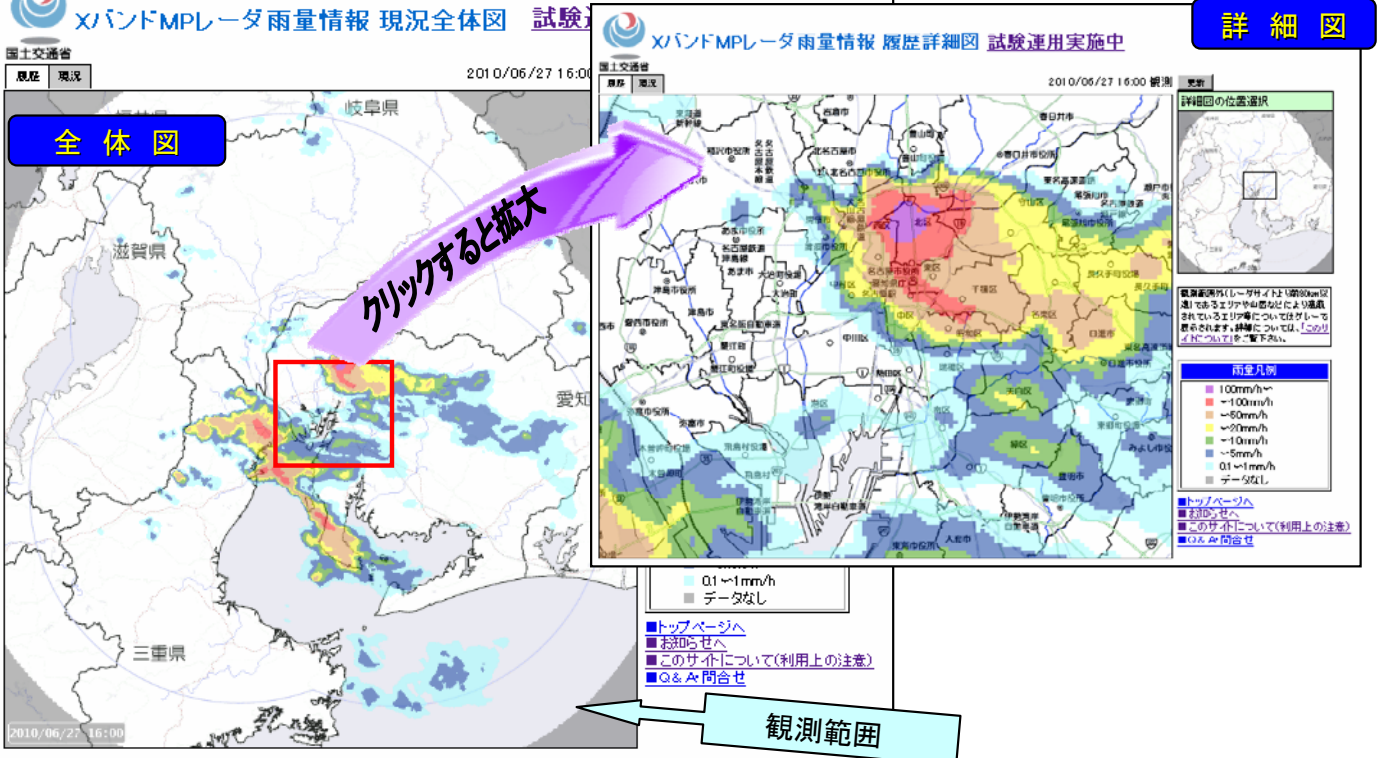
レーダ設置状況写真(一宮)



【XバンドMPレーダとCバンドレーダの比較】

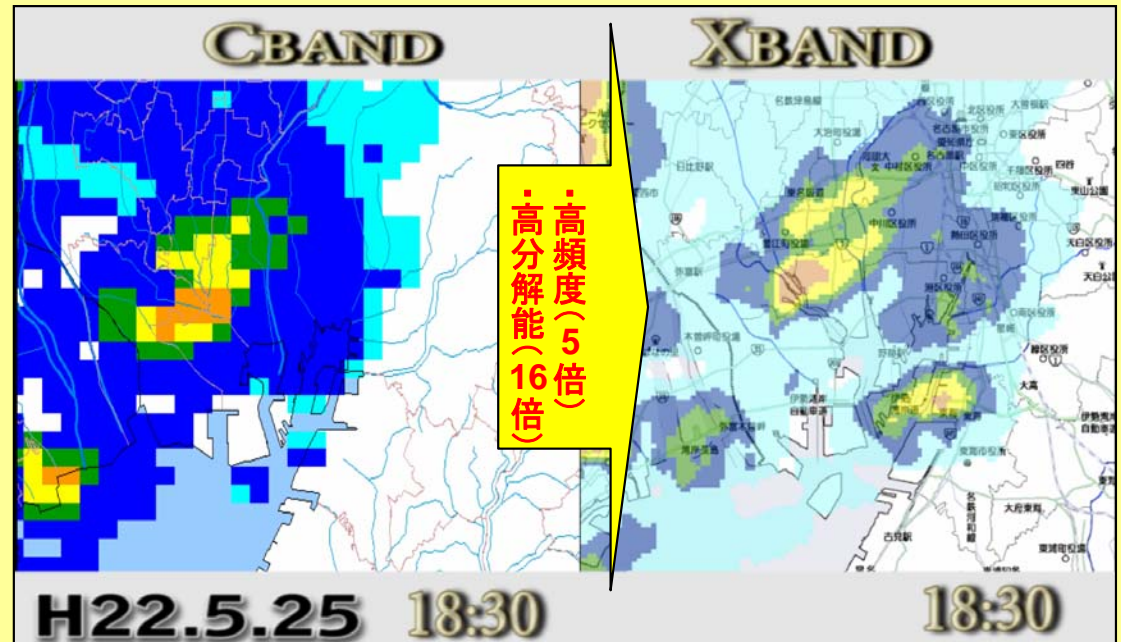
	【従来型】 Cバンドレーダ	【新 型】 XバンドMPレーダ
最小観測単位	1kmメッシュ	250mメッシュ
観測間隔	5分	1分

サービス画面の説明



従来型レーダとの比較

国土交通省の従来型レーダ(Cバンドレーダ)と新型レーダ(XバンドMPレーダ)の実際の観測による画像データを比較したものが以下の図です。
 この図から、右側のXバンドMPレーダの方がより詳細に局所的な雨域を観測できていることがわかります。



※Cバンドレーダ(観測半径120km)は広域的な降雨観測に適するのに対し、Xバンドレーダ(観測半径80km)は観測可能エリアは小さいものの局地的な大雨についても詳細かつリアルタイムでの観測が可能です。

愛知県河川課より 水防災に関する情報提供 : 日光川玉野放水路の供用を開始しました

日光川放水路は、日光川及び領内川などの支川の洪水の一部を木曾川へ排水する施設で、平成20年4月に領内川と木曾川を結ぶ祖父江放水路が供用を開始し、引き続き、日光川と領内川を結ぶ玉野放水路を平成22年6月1日(火)に供用を開始しました。

このことにより、領内川に加え日光川本川の洪水の一部についても直接木曾川へ排水することが可能となり、日光川流域全域で浸水被害の軽減が図れるなど、大きな効果が期待されます。なお、放水路を建設した事業の概要は、次のURLにあります。

<http://www.pref.aichi.jp/0000032614.html>